
就労支援に関する指標策定のための調査 報告書

京都自立就労サポートセンター推進委員会 ワーキングチーム
2015年3月

目次

1	調査の概要	3
	調査の目的：	3
	調査の方法：	3
	調査対象（調査協力団体）：	4
	調査内容：	4
	回収数：	4
	倫理的配慮：	4
	分析方法：	4
	参考文献：	5
2	調査の結果	6
I	基礎情報	6
	① 性別・年齢	6
	② 学歴	7
	③ 婚姻歴	7
	④ 家族数	8
	⑤ 収入状況	9
	⑥ 疾患の保持	9
	⑦ 疾患への対処	10
	⑧ 睡眠の程度	10
	⑨ 手帳の有無	11
II	就労に絡む情報	12
	① 相談員のみからみた対象者の課題	12
	② 就労状況	13
	③ 離職理由	13
	④ 離職期間	14
	⑤ 希望していること	15
	⑥ 相談員の自由記述からみる就労支援を行う上で気になること	15
III	尺度結果情報	17
	①SF36v2	17
	②TB31	19
	③TAC24	20

資料編.....	24
依頼文.....	24
基本情報シート.....	26
SF36v2 調査票.....	28
TB31 調査票.....	34
TAC24 調査票.....	35
同意書.....	36

1 調査の概要

調査の目的：

生活困窮者の支援、特に就労困難者への支援を考える上で、対象者がどのような課題を有しているのかを明らかにすることにより、今後の支援方策検討の手がかりとすることを目的とする。

調査の方法：

調査1 全国の生活困窮者自立促進支援モデル事業を受託している各団体へ協力を依頼し、相談支援機関を訪れる新規相談者への次の3つの質問紙調査を実施した。

- (1) 基本情報シート（相談員記入）
- (2) SF36v2（自己記入）※1¹
- (3) TB31（相談員記入）※2

調査2 京都自立就労サポートセンターにおいてのみ、ヨガ教室の受講者を対象にプログラム前後の変化を確認するために次の質問紙調査を実施した。

- (4) TAC24（自己記入）※3

※1 SF36v2：健康関連 QOL（HRQOL: Health Related Quality of Life）を測定するための、科学的で信頼性・妥当性を持つ国際的な尺度。(1)身体機能 (2)日常役割機能（身体）(3)体の痛み (4)全体的健康感 (5)活力 (6)社会生活機能 (7)日常役割機能（精神）(8)心の健康を測定できる。また、8つの下位尺度から「身体的側面の QOL」「精神的側面の QOL」「役割/社会的側面の QOL」を算出できる。なお、iHope International 株式会社よりライセンス供与を受けている。

※2 TB31：脳外傷者等の不適応行動の程度をカテゴリー別に測定し、リハビリテーションの計画やその効果を検討することを目的としている尺度であるが、近年の障害者就労の現場でも利用され始めている。(1)健忘性、(2)易疲労性・意欲の低下、(3)対人場面での状況判断力の低下、(4)固執性、(5)情動コントロール力の低下、(6)現実検討力の低下、(7)課題遂行力の低下の程度を測定できる。

※3 TAC24：ストレスコーピング、すなわち対処方略に関する尺度である。「関与－回避」「問題－情動」「認知－行動」の3つの軸が設定され、その組み合わせにより(1)気晴らし(2)回避的思考(3)責任転嫁(4)放棄・諦め(5)肯定的解釈(6)カタルシス(7)計画立案(8)情報収集の8通りのコーピングを測定できる。

• ¹ SF-36v2[®] Health Survey © 1992, 2000, 2003 QualityMetric Incorporated, Medical Outcomes Trust and Shunichi Fukuhara. All rights reserved.
SF-36[®]は Medical Outcomes Trust の登録商標です。

調査対象（調査協力団体）：

全国で自立相談支援機関の相談事業を受託している、次の団体に協力を得て実施した

- 特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター（札幌・岩見沢）
- 一般社団法人パーソナルサポートセンター（仙台市）
- 特定非営利活動法人ぎふNPOセンター（岐阜県）
- 特定非営利活動法人NPO スチューデント・サポート・フェイス（佐賀県）
- 公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会（沖縄県）
- 京丹後市『くらし』と『しごと』の寄り添い支援センター（京丹後市）
- 京都自立就労サポートセンター（京都府）
- 京都自立就労サポートセンター北部サテライト（福知山市）

調査内容：

属性（性別、学歴、家族状況、収入状況、健康状態、手帳有無、就労経験、離職期間、希望する生活等）、SF36v2、TB31、TAC24 など。

回収数：

（調査1）京都自立就労サポートセンターのデータを主としつつも全国の協力団体から134名の協力を得た。ただし、3種類の調査票すべてを回答していないケースがあるため、各設問の合計数が一致しない場合がある。

（調査2）京都自立就労サポートセンターにおいてヨガプログラムを受講した相談者25名の協力を得た。ただし、ヨガプログラムの前後（1回目、2回目）で比較する仕様を想定したが、1回目のみの回答が10名、2回目のみの回答が1名、比較可能な形で2回回答した者は14名となった。

倫理的配慮：

調査を行うにあたって、調査依頼の際に調査協力が自由意思によるものであることを明確にし、口頭・文書にて説明を加えた。また、調査票の回収まではいつでも調査参加の取りやめを出来ることを保証し、その調査協力参加を取りやめても決して相談で不利益を被らないよう最大限の配慮を加えた。日本社会福祉学会研究倫理指針等を参考に量的研究のデータについては個人・組織が特定されないように数値化して管理保管した。

なお、協力団体には調査協力への同意書を記入してもらっている。

分析方法：

統計的検定にはSPSS18.0 for windowsを使用し、t検定、 χ^2 検定、および、ロジスティック分析等を行った。有意水準は、1%と5%を採用した。

参考文献：

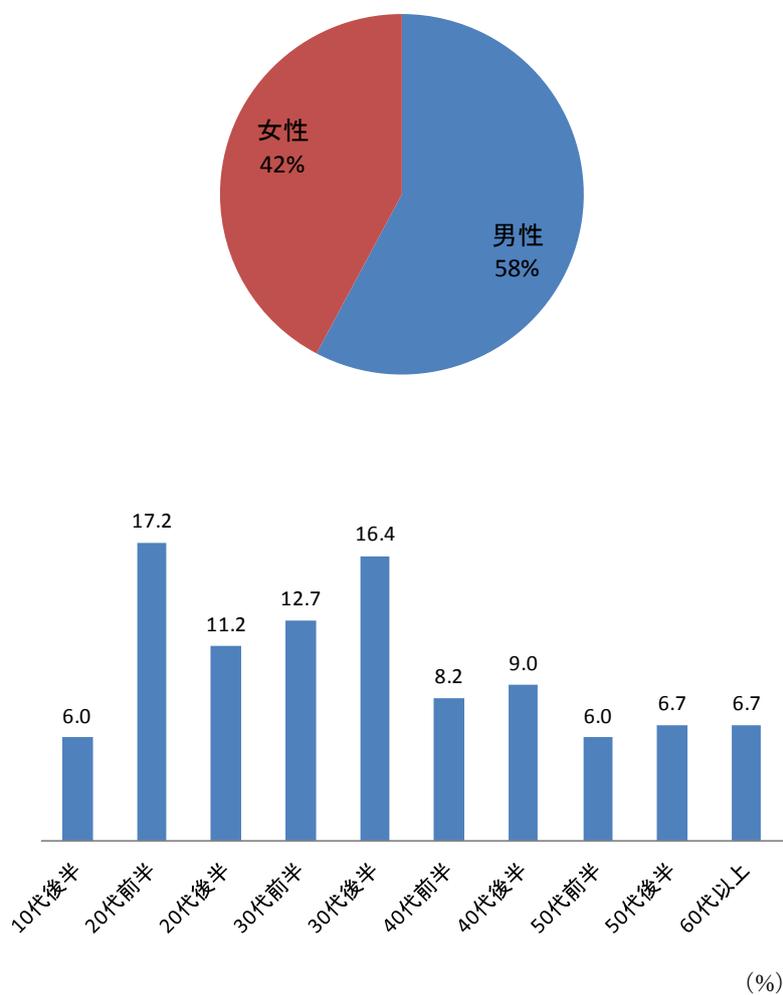
- ・ Fukuhara S, Bito S, Green J, Hsiao A, and Kurokawa K: Translation, adaptation, and validation of the SF-36 Health Survey for use in Japan. *Journal of Clinical Epidemiology*, 51,11, 1037-1044, 1998
- ・ Fukuhara S, Ware J E, Kosinski M, Wada S, Gandek B: Psychometric and clinical tests of validity of the Japanese SF-36 Health Survey, *Journal of Clinical Epidemiology*, 51,11, 1045-1053, 1998
- ・ 福原 俊一、鈴嶋 よしみ、SF-36v2 日本語版マニュアル：特定非営利活動法人健康医療評価研究機構、京都、2004
- ・ 神村 栄一他 対処方略の三次元モデルの検討と新しい尺度(TAC-24)の作成：教育相談研究 33, 41-47, 1995

2 調査の結果

I 基礎情報

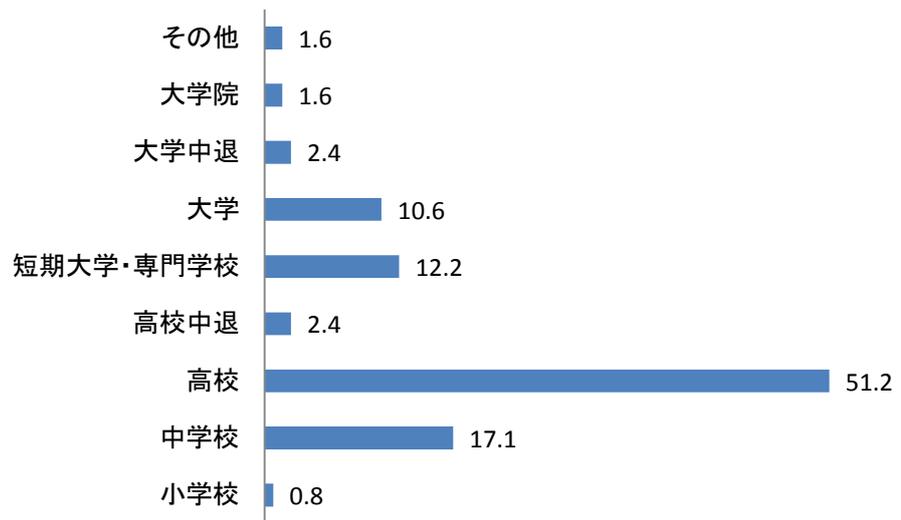
① 性別・年齢

本調査の対象は、男性 78 名（57.8%）、女性 57 名（42.2%）で、平均年齢は、36.9(±13.4) 才であった。最小 16 才、最高 70 才であった。また、年代別でみると、10 代後半 8 名（6.0%）、20 代前半 23 名（17.2%）、20 代後半 15 名（11.2%）、30 代前半 17 名（12.7%）、30 代後半 22 名（16.4%）、40 代前半 11 名（8.2%）、40 代後半 12 名（9.0%）、50 代前半 8 名（6.0%）、50 代後半 9 名（6.7%）、60 代以上 9 名（6.7%）となっていた。



② 学歴

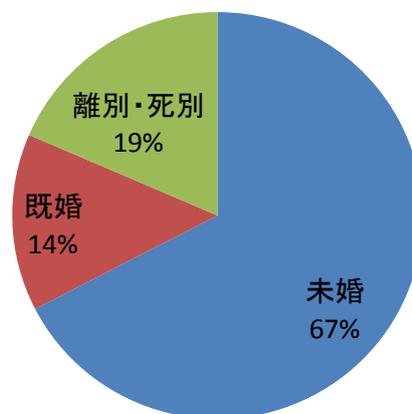
対象者の学歴については、小学校 1 名 (0.8%)、中学校 21 名 (17.1%)、高校 63 名 (51.2%)、高校中退 3 名 (2.4%)、短期大学・専門学校 15 名 (12.2%)、大学 13 名 (10.6%)、大学中退 3 名 (2.4%)、大学院 2 名 (1.6%)、その他 2 名 (1.6%) であった。



(%)

③ 婚姻歴

対象者の婚姻歴は、未婚 91 名 (67.4%)、既婚 19 名 (14.1%)、離別・死別 25 名 (18.5%) であった。



なお、年代（5歳刻み）別でみると、男性の未婚率の割合は、10代後半4名（100%）、20代前半9名（100%）、20代後半9名（90.0%）、30代前半9名（81.8%）、30代後半12名（70.6%）、40代前半7名（100%）、40代後半3名（100%）、50代前半1名（25.0%）、50代後半3名（75.0%）、60代以上1名（12.5%）となっていた。女性は、10代後半4名（100%）、20代前半14名（100%）、20代後半4名（80.0%）、30代前半4名（66.7%）、30代後半1（20.0%）、40代前半1名（25.0%）、40代後半5名（55.6%）となっていた。国勢調査の男性・女性の平均未婚率（平成22年）と比較（※）すると、下記の表のとおり、男性は全年齢別において、女性は一部を除きほぼすべての年齢別において、未婚率が国民平均より高かった。

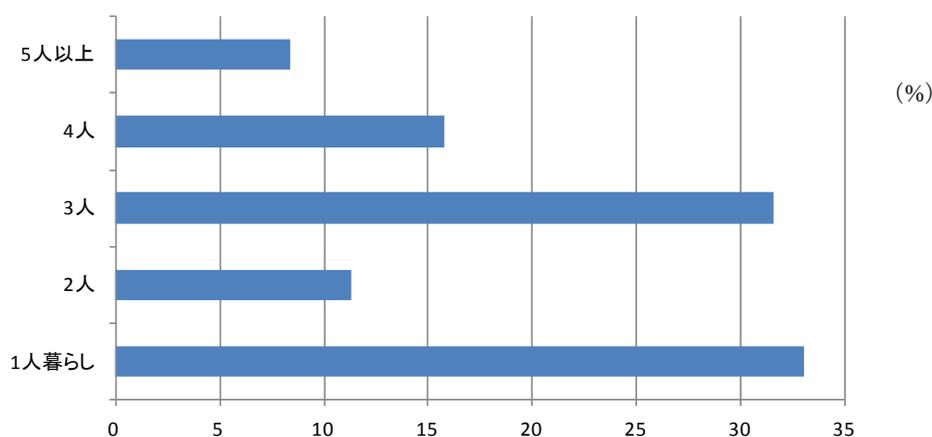
	PS対象者(男性)		全国(男性)	PS対象者(女性)		全国(女性)
	N	未婚率	未婚率	N	未婚率	未婚率
10代後半	4	100.0%	99.7%	4	100.0%	99.4%
20代前半	9	100.0%	94.7%	14	100.0%	89.6%
20代後半	9	90.0%	71.1%	4	80.0%	59.9%
30代前半	9	81.8%	46.5%	4	66.7%	33.3%
30代後半	12	70.6%	34.6%	1	20.0%	22.4%
40代前半	7	100.0%	27.9%	1	25.0%	16.6%
40代後半	3	100.0%	24.5%	5	55.6%	11.7%
50代前半	1	25.0%	17.2%	0	0.0%	7.8%
50代後半	3	75.0%	13.6%	0	0.0%	6.2%
60代以上	1	12.5%	—	0	0.0%	—

※ 総務省：平成22年国勢調査。「配偶関係、年齢（5歳階級）男女別15歳以上人口の割合」

④ 家族数

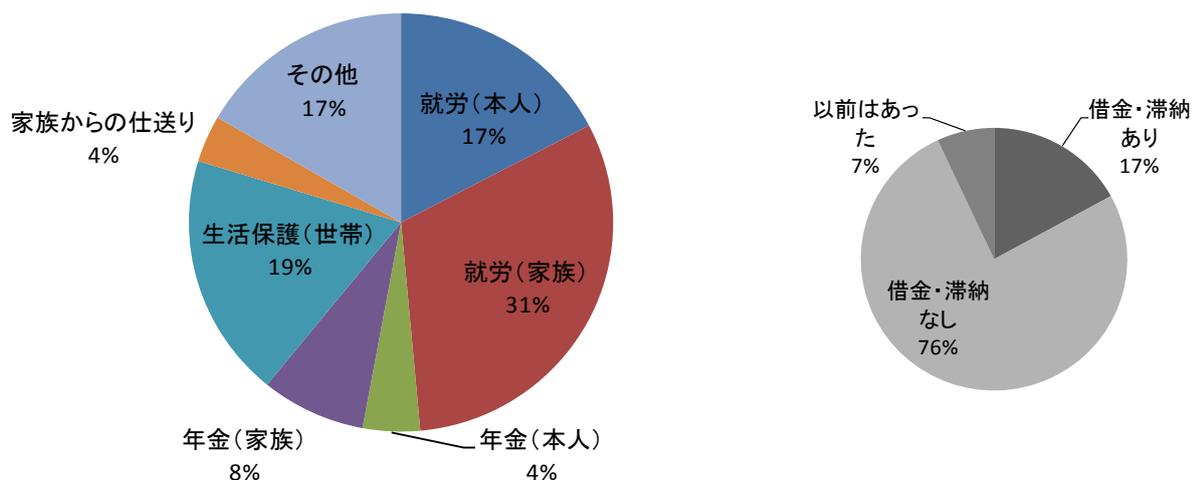
対象者の家族数は、1人（1人暮らし）44名（33.1%）、2人15名（11.3%）、3人42名（31.6%）、4人21名（15.8%）、5人8名（6.0%）、6人・7人・8人暮らしは、それぞれ1名（それぞれ0.8%）であった。

同居家族としては、母親と同居59名（66.3%）、父親と同居39名（43.8%）、配偶者と同居18名（20.2%）の順で多かった（重複回答）。



⑤ 収入状況

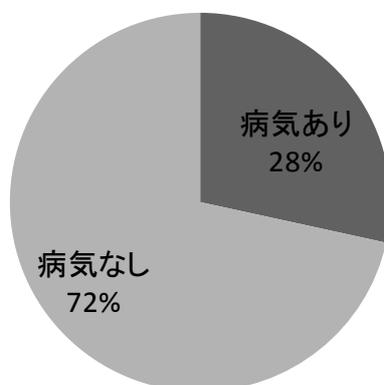
対象者の収入状況は、家族の就労による収入 43 名 (31.6%)、生活保護による世帯収入 26 名 (19.1%)、本人の就労による収入 24 名 (17.6%)、家族の年金による収入 11 名 (8.1%)、本人の年金による収入 6 名 (4.4%)、家族からの仕送り 5 名 (3.7%)、その他 23 名 (16.9%) となっていた。なお、「その他」は、貯金、傷病手当、失業手当、緊急宿泊所利用中などであった。借金・滞納に関しては、借金・滞納がある人 22 名 (17.1%)、以前はあった人 9 名 (7.0%)、借金・滞納はない人 98 名 (76.0%) であった。借金・滞納がある人と以前にあった人を含めると 24.1%であった。



⑥ 疾患の保持

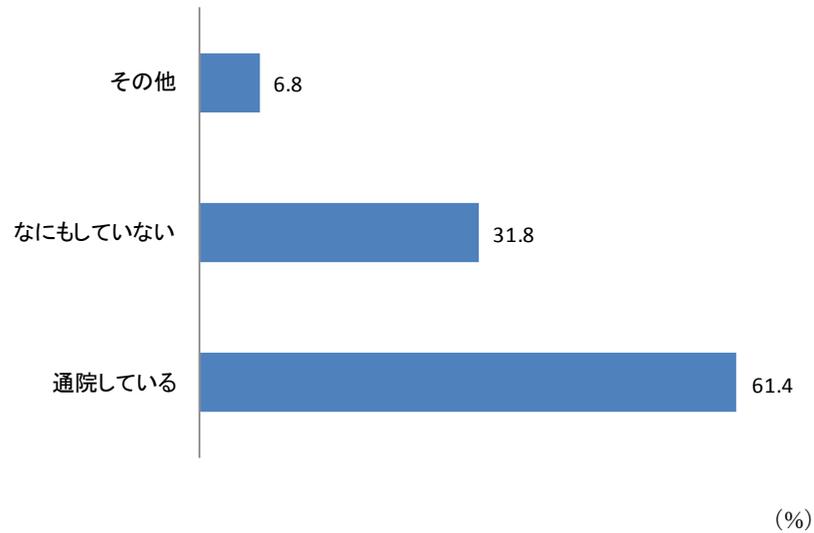
対象者の病気の有無について尋ねたところ、病気があるものは 35 名 (28.5%)、病気はないものは 88 名 (71.5%) であった (病気未記入者 13 名を省く)。

病気がある者の病名については、うつ(病)・状態 11 名、その他の精神不調(気分変調性障害、緊張型不安障害等) 8 名、高血圧 2 名、アルコール 2 名、発達障害 2 名の順に多かった。その他、パーキンソン病、ベーチェット病、腰痛などがあつた。



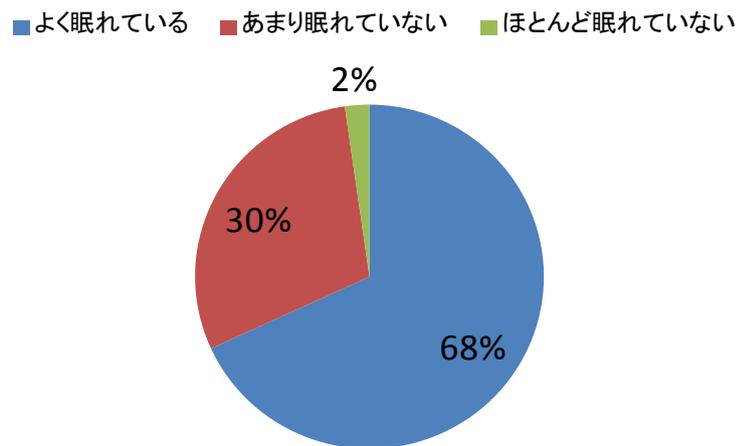
⑦ 疾患への対処

病気の対処については回答があった者 44 名については、通院している 27 名 (61.4%)、なにもしていない 14 名 (31.8%)、その他 3 名 (6.8%) であった。その他は、「今、通院していない」、「困窮等で通院できない」などであった。



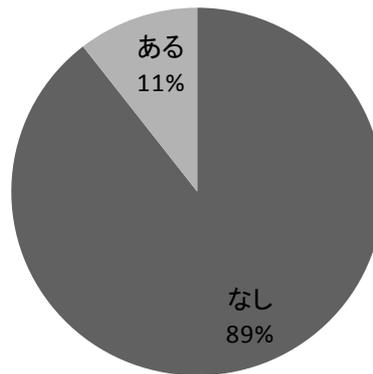
⑧ 睡眠の程度

対象者の睡眠の程度については、よく眠れている 90 名 (68.2%)、あまり眠れていない 39 名 (29.5%)、ほとんど眠れていない 3 名 (2.3%) であった。



⑨ 手帳の有無

身体障害者手帳、療育手帳、および、精神障害者保健福祉手帳の有無については、手帳不保持者が119名（89.5%）、手帳保持者が14名（10.5%）であった。14名の手帳種類の内訳は、身体障害者手帳 1名、精神障害者福祉手帳 5名、療育手帳 4名、不明 4名であった。

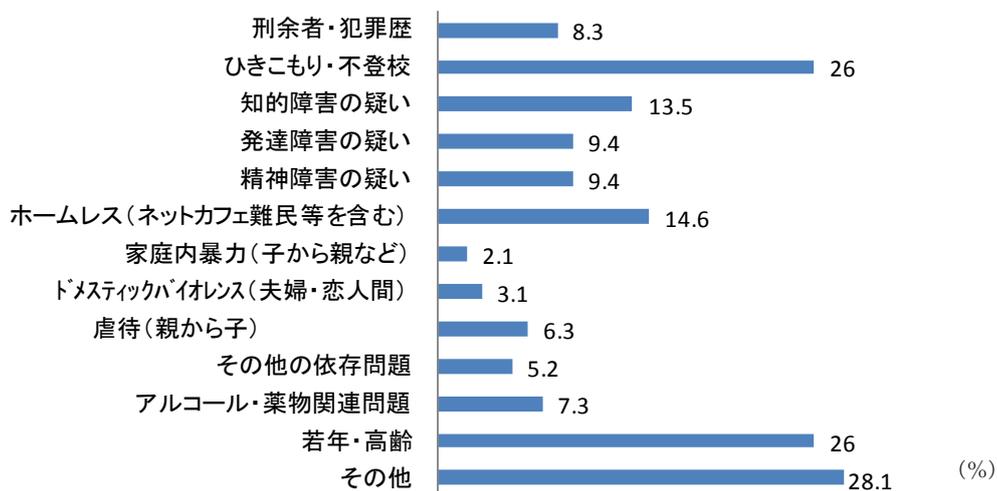


II 就労に絡む情報

① 相談員の間からみた対象者の課題

就労支援窓口で相談をうけた相談員の見立て（複数回答可）の結果をまとめたものである。有効回答数は88名（64.7%）で、48名（35.3%）は未記入であった。

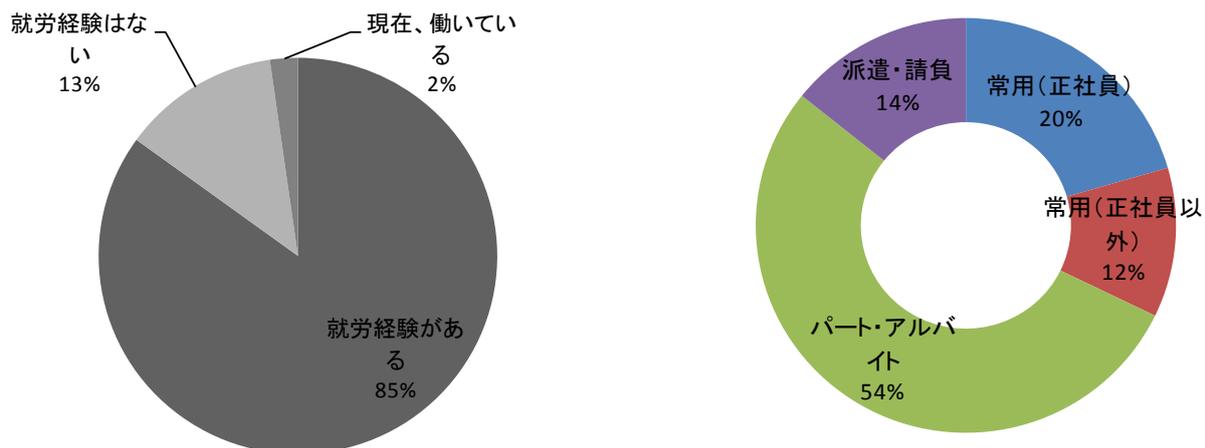
88名の課題としては、若年・高齢が挙げられた者25名（26.0%）、アルコール・薬物関連問題7名（7.3%）、その他の依存問題5名（5.2%）、虐待（親から子）6名（6.3%）、ドメスティックバイオレンス（夫婦・恋人間）3名（3.1%）、家庭内暴力（子から親など）2名（2.1%）、ホームレス（ネットカフェ難民等を含む）14名（14.6%）、精神障害の疑い9名（9.4%）、発達障害の疑い9名（9.4%）、知的障害の疑い13名（13.5%）、ひきこもり・不登校25名（26.0%）、刑余者・犯罪歴8名（8.3%）、その他27名（28.1%）となっていた。その他は、コミュニケーション能力の問題、ネット依存、パワハラ、家族関係問題、DVのトラウマ、自殺企図、暴力傾向などであった。年代別の詳細も以下のグラフに示す。



	年齢層10歳刻み						合計
	10代後半	20代	30代	40代	50代	60代	
若年・高齢	1	7	1	3	4	4	20
アルコール・薬物関連問題	0	1	4	0	1	1	7
その他の依存問題	0	1	2	1	1	0	5
虐待（親から子）	1	4	0	0	0	0	5
ドメスティックバイオレンス（夫婦・恋人間）	0	1	0	0	1	0	2
家庭内暴力（子から親など）	0	0	0	2	0	0	2
ホームレス（ネットカフェ難民等を含む）	0	2	6	3	2	1	14
精神障害の疑い	0	1	5	1	2	0	9
発達障害の疑い	0	2	2	2	1	0	7
知的障害の疑い	0	4	4	3	1	1	13
ひきこもり・不登校	0	13	6	4	0	0	23
刑余者・犯罪歴	0	0	5	0	2	1	8
その他	0	8	10	4	2	2	26
	1	27	28	16	11	5	88

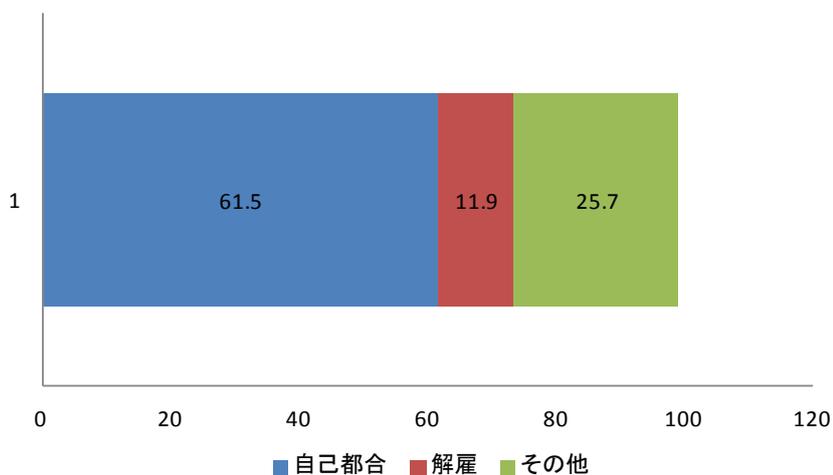
② 就労状況

対象者の就労経験の有無については、就労経験がある 113 名（85.0%）、就労経験はない 17 名（12.8%）、現在働いている 3 名（2.3%）であった。また、就労経験がある者に最後の仕事について尋ねたところ、常用（正社員）23 名（20.4%）、常用（正社員以外）13 名（11.5%）、パート・アルバイト 60 名（53.1%）、派遣・請負 16 名（14.2%）であった。



③ 離職理由

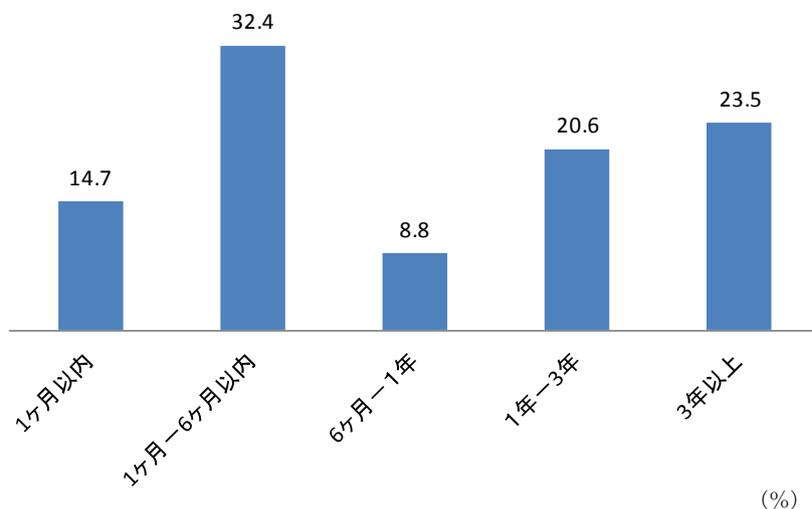
最後の仕事の離職理由について対象者に尋ねたところ、自己都合 67 名（61.5%）、解雇 13 名（11.9%）、その他 29 名（26.6%）であった。



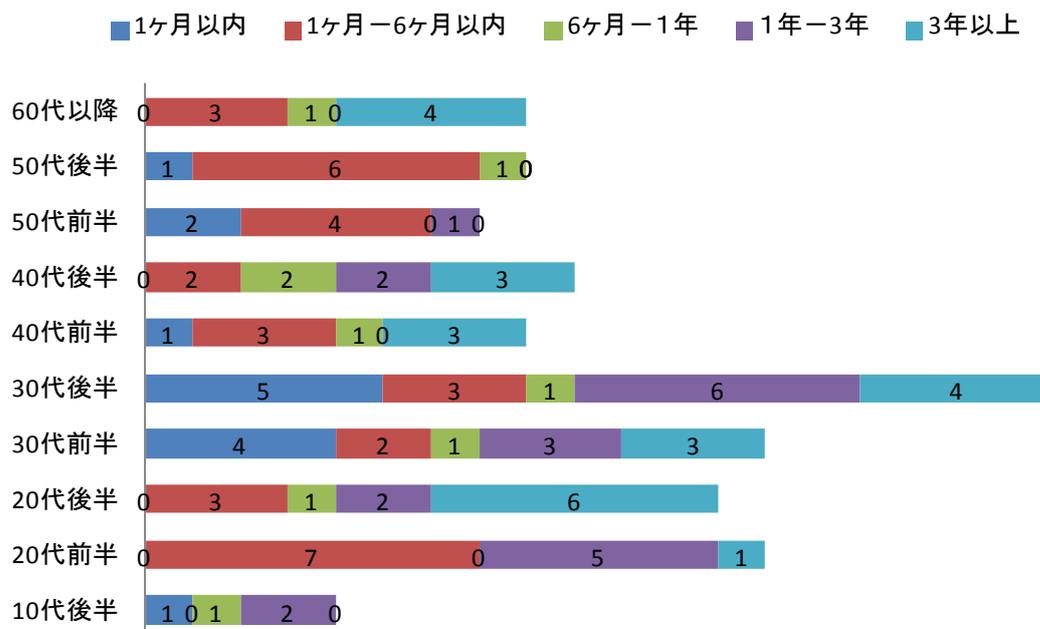
(%)

④ 離職期間

最後の仕事を辞めてからの離職期間については、1ヶ月以内 15名 (14.7%)、1ヶ月-6ヶ月以内 33名 (32.4%)、6ヶ月-1年 9名 (8.8%)、1年-3年 21名 (20.6%)、3年以上 24名 (23.5%) であった。

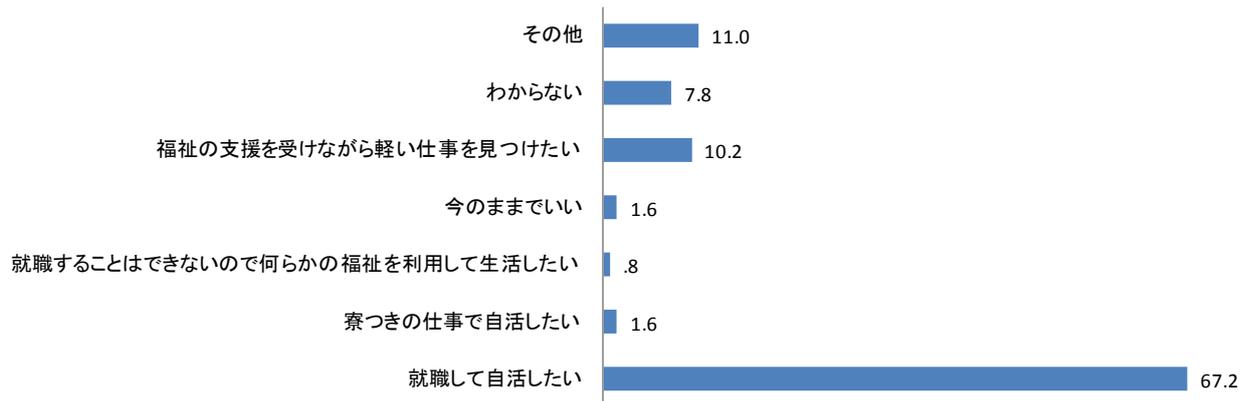


なお、年代別 (5歳刻み) でみると、下記のようになった。20代後半は3年以上の離職期間の傾向、50代後半は1ヶ月-6ヶ月以内の離職期間にて有意な結果となっていた (χ^2 検定, $p \leq 0.01$)。



⑤希望していること

対象者が希望していることとして、就職して自活したい 86 名 (67.2%)、寮付きの仕事で自活したい 2 名 (1.6%)、就職することはできないので何らかの福祉を利用して生活したい 1 名 (0.8%)、今のままでいい 2 名 (1.6%)、福祉の支援を受けながら軽い仕事を見つきたい 13 名 (10.2%)、わからない 10 名 (7.8%)、その他 14 名 (11.0%) となっていた。



⑥ 相談員の自由記述からみる就労支援を行う上で気になること

就労支援をする上での相談員の自由記述欄から下記の項目が抽出された。詳細は、以下の各項目を参照のこと。



詳細（例）：

<p>身体の課題(身体疾患含む)</p>	<p>医療機関への受診が就労のネックになる。 アトピーによって人前に出ることを避けている。</p>
<p>精神の課題(精神疾患含む)</p>	<p>自己肯定感・自己有用感が低く、引きこもり状態からのスタートがあり、時間がかかるケースとなっている。 自殺企図あり、就労以前に生きる希望を見つける必要有り。 財布を3回無くす等の注意力が不足している点、金銭管理能力がある。</p>
<p>自立の課題</p>	<p>母の干渉、過剰な金銭管理により、自立したいという本人の願いが妨げられている。 おこられることに対して慣れていない(幼いころに両親を亡くしたため)</p>
<p>経歴の課題</p>	<p>刑余期間が長く、就労で長く続いた経験がほとんど無い。犯罪をくり返している点と、生育歴等から知的障がいの疑いがある。お金が入ると、アルコールに使う傾向がある。 学校卒業後から現在まで仕事の経験がないため、「仕事」のイメージを描きにくい様子。</p>
<p>家庭の課題</p>	<p>一日子供と一緒に夜泣きするので疲れている。夫と本人の両親も近くにいないので頼る人がいない。保育園の生活に合わせる為、夜寝させる時間を早めたので夫の協力を得られない。 母の介護の問題がある。</p>
<p>依存問題(アルコール等)の課題</p>	<p>覚せい剤(幻聴がある)、一回就労不可と判断されている。 本人の希望として療育手帳を使い、A型施設で働き、正社員を目指しているが、ギャンブル依存が一番の課題である。</p>
<p>知的の課題</p>	<p>親との関係は希薄となっているが、小学校卒業時に支援学校を勧められ、これを両親が断り、本人に頑張れと言いつけ、これが今でも残り、威勢を張る+障害を受け入れない原因となっている。しかし、生活も仕事でもできないことが多く、不安感も強い。 本人は就労できるつもりでいるが、客観的にみると難しく思える。その旨をどのように気付いてもらい自覚してもらえるか…が今後の課題となってくる。様子から、知的障がいの疑いも視野に入れて考えていかなければいけない点が気になっている。</p>
<p>コミュニケーション能力の課題(発達障害含む)</p>	<p>コミュニケーションに自信がないと言うが、その程度と把握する必要がある。問に対する返しが遅れがちであり、投げ掛けられた言葉の意図を理解するために時間を要すようである。 生活困窮状態にあるものの、障害年金や生活保護の受給を現段階では拒否している。就労意欲や能力(作業的)はあるが、コミュニケーションや身だしなみ、会社のルールを守れないところに課題がある。 履歴書を書くのが苦手、意欲はあっても相手方に伝えるのが苦手</p>

Ⅲ 尺度結果情報

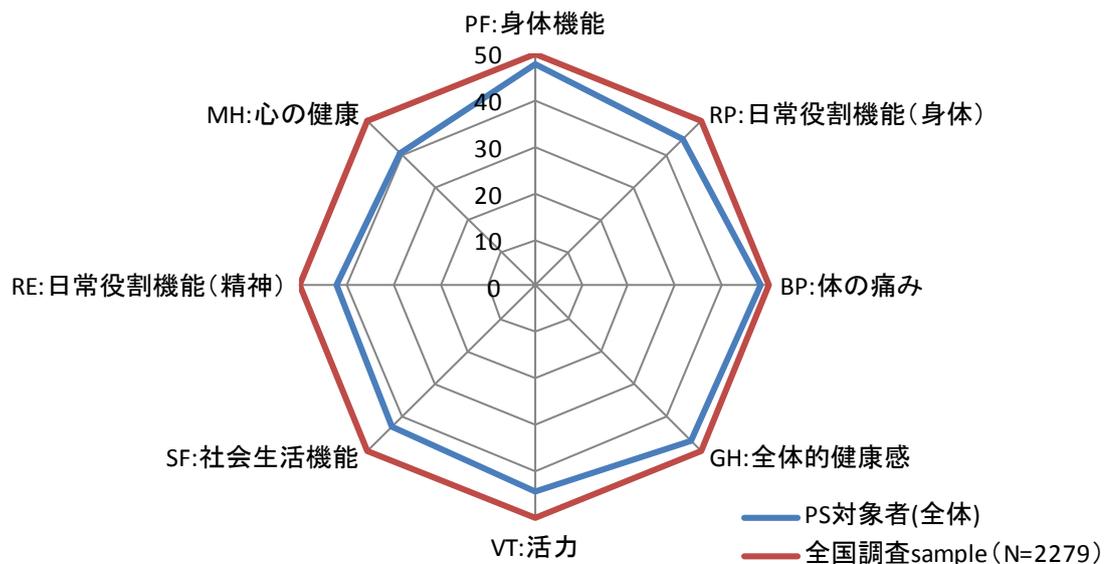
①SF36v2

全般的健康に絡む QOL (HRQOL: Health Related Quality of Life) を測定するための、科学的で信頼性・妥当性を持つ国際的な尺度にて対象者を査定した。この尺度によって、(1)身体機能 (2)日常役割機能(身体) (3)体の痛み (4)全体的健康感 (5)活力 (6)社会生活機能 (7)日常役割機能(精神) (8)心の健康を測定できる。また、また、8つの下位尺度から「身体的側面の QOL」「精神的側面の QOL」「役割/社会的側面の QOL」を算出できる(参考: 次頁)。それぞれ(1)~(8)の質問項目の詳細は以下のとおりである。

- (1)身体機能; 激しい運動をする、重いものを持ち上げる、自分で入浴・着替えをする
- (2)日常役割機能(身体); 仕事や普段の活動時間を減らした、思ったほどできなかった
- (3)体の痛み; 体の痛みの程度、痛みによっていつもの仕事が妨げられた
- (4)全体的健康感; 現在の健康状態の評価、人より病気になりやすい、人並みに健康である
- (5)活力; 元気いっぱい、活力にあふれている、疲れ果てている
- (6)社会生活機能; 健康上の理由でふだんの付き合いがさまたげられた
- (7)日常役割機能(精神); 仕事や普段の活動時間を減らした、仕事やふだんの仕事が集中してできなかった
- (8)心の健康; かなり神経質だった、どうにもならないくらい気分がおちこんでいた、落ち着いていて穏やかな気分だった

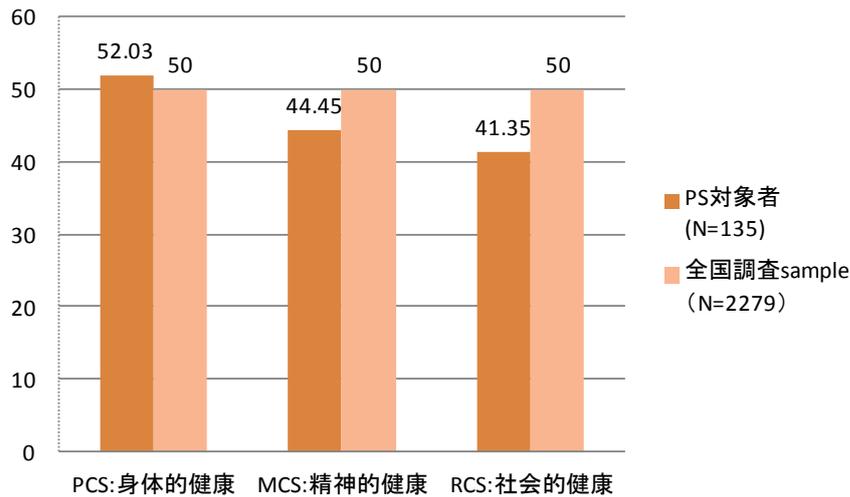
●全般的健康状態

対象者 135 名の健康状態の平均値は、PF:身体機能 47.8 点、RP:日常役割機能(身体) 44.4 点、BP:体の痛み 48.3 点、GH:全体的健康感 47.4 点、VT:活力 44.1 点、SF:社会生活機能 42.6 点、RE:日常役割機能(精神) 42.1 点、MH:心の健康 40.5 点であった。全国調査平均の国民標準値と比較すると、下記のように、全項目において平均点が低かった。とくに、心の健康、社会生活機能、日常役割機能(精神・身体)において低かった。



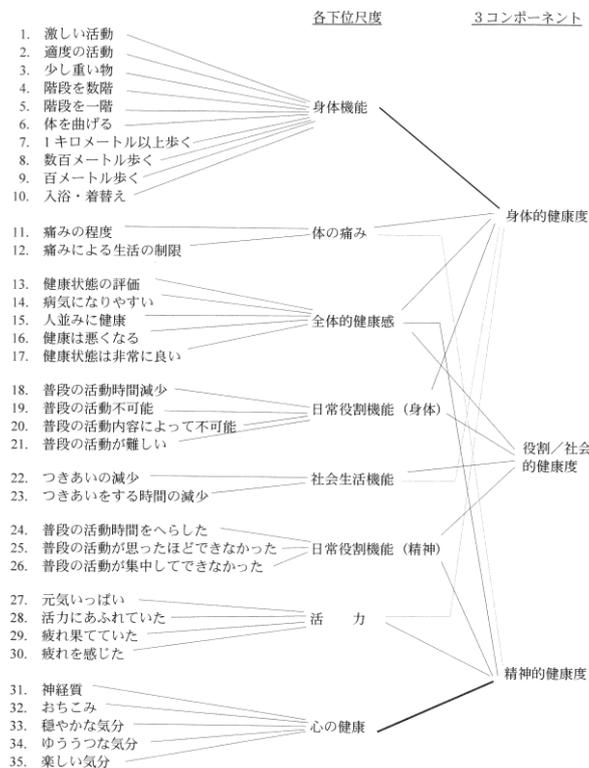
●身体的健康・精神的健康・社会的健康

人の健康に関連する QOL は、身体的な側面と精神的な側面、ならびに役割/社会的側面に分けることができ、それぞれの平均値を求めたところ、対象者の「身体的健康」は 52.0 点、「精神的健康」は 44.5 点、「社会的健康」は、41.4 点であった。全国調査平均の国民標準値と比較すると、下記のように、精神的健康と社会的健康においては有意に低かったが、身体的健康については若干高かった。



<参照>身体的健康・精神的健康・社会的健康の概念モデル

図 8.2 3コンポーネントの概念モデル



②TB31

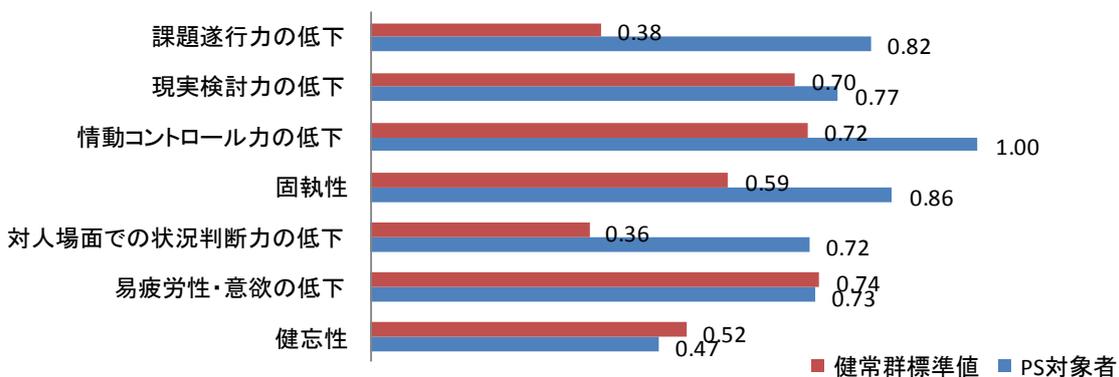
本来は、脳外傷者等の不適応行動の程度をカテゴリー別に測定し、リハビリテーションの計画やその効果を検討することを目的としている尺度であるが、近年の障害者就労の現場でも利用され始めている。(1) 健忘性、(2) 易疲労性・意欲の低下、(3) 対人場面での状況判断力の低下、(4) 固執性、(5) 情動コントロール力の低下、(6) 現実検討力の低下、(7) 課題遂行力の低下の程度を測定できる。それぞれの項目の詳細は以下のとおりである。

質問項目例:

(1) 健忘性	伝えた内容について、他のことをした後確認すると忘れている 数分前に伝えたことを忘れている
(2) 易疲労性・意欲の低下	何もしたがらない することがないと横になりたがる
(3) 対人場面での状況判断力の低下	会話の文脈に合わない発言をする 話題がかわってもすぐに話に付いてこれられない
(4) 固執性	気になることがあるとくり返しおこなう 物の配置や収納場所を過剰に一定にしたがる
(5) 情動コントロール力の低下	ちょっとしたことがきっかけで怒鳴る 待たされると怒ったりイライラしたりする
(6) 現実検討力の低下	問題を指摘されたり失敗に直面しても気につけない 危険なことをしているのに自分では安全だと思っている
(7) 課題遂行力の低下	決まった日課にそって行動できるが、変更や追加があると対応できない 予定が重なるとどうしたらいいかわからなくなる

●不適応行動の程度

対象者の不適応行動の程度は、規定の計算式に則り平均点を出したところ、健忘性 0.47 点 (2) 易疲労性・意欲の低下 0.73 点、対人場面での状況判断力の低下 0.72 点、固執性 0.86 点、情動コントロール力の低下 1.00 点、現実検討力の低下 0.77 点、課題遂行力の低下 0.82 点であった。対象者の不適応行動を規定の健常群標準値 (※1) と比較すると、今回の対象者は、特に課題遂行力、対人場面での状況判断力の低下の傾向 (※2) があつた。



※1) 健常群標準値については以下の文献を参照；総合リハビリテーション 35 巻 9 号(2007 年 9 月)「脳外傷者の認知-行動障害尺度 (TBI-31) の作成 -生活場面の観察による評価」 久保義郎・他

※2) 健常群標準値 (平均) との比較につき、本対象者との統計上有意の判断は厳密には出来ない。

③TAC24

京都自立就労サポートセンターにおいてヨガプログラムを受講した相談者に対して、ヨガプログラムの前後（1回目、2回目）で、コーピングの変化を比較した。

TAC-24は、これまでの多くのコーピング（対処）に関するスケールを理論的に整理して3次元に集約したスケールである。

以下の3つの組み合わせによる8通りのコーピングから構成される。また二次因子として3通りの下位尺度を計算できる。

1. 関与－回避 態度は積極的に関わるか、回避しようとするか
2. 問題－情動 ねらいは問題解決か、気持ちの安定か
3. 認知－行動 方法はどうか考えるか、行動にうつすか

コーピングの8因子

情報収集：関与・問題・行動

- 14 既に経験した人から話を聞いて参考にする
- 22 力のある人に教えを受けて解決しようとする
- 6 詳しい人から自分に必要な情報を収集する

計画立案：関与・問題・認知

- 5 原因を検討し、どのようにしていくべきか考える
- 21 どのような対策を取るべきか綿密に考える
- 13 過ぎたことの反省をふまえて、次にすべきことを考える

カタルシス：関与・情動・行動

- 10 誰かに話を聞いてもらい、気を静めようとする
- 2 誰かに話を聞いてもらって冷静さを取り戻す
- 18 誰かに愚痴をこぼして、気持ちをほらす

肯定的解釈：関与・情動・認知

- 17 悪いことばかりではないと、楽観的に考える
- 9 今後は良いこともあるだろうと考える
- 1 悪い面ばかりでなく良い面も見つけていく

放棄・諦め：回避・問題・認知

- 23 自分では手におえないと考え、放棄する
- 7 対処できない問題であると考え、諦める
- 15 どうすることもできないと、解決をあと延ばしにする

責任転嫁：回避・問題・行動

- 16 自分は悪くないと言いのがれをする
- 8 責任を他の人に押し付ける
- 24 口からでまかせを言って逃げ出す

回避的思考：回避・情動・認知

- 11 嫌なことを頭に浮かべないようにする
- 3 そのことをあまり考えないようにする
- 19 無理にでも忘れるようにする

気晴らし：回避・情動・行動

- 20 買い物や賭け事、おしゃべりなどで時間をつぶす
- 4 ともだちとお酒を飲んだり好物を食べたりする
- 12 スポーツや旅行などを楽しむ

下位尺度 3 因子

第 1 因子：問題解決・サポート希求

情報収集、計画立案、カタルシス

第 2 因子：問題回避

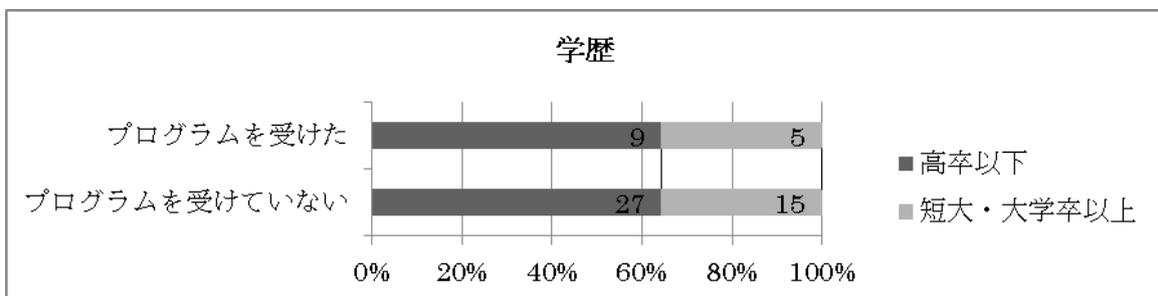
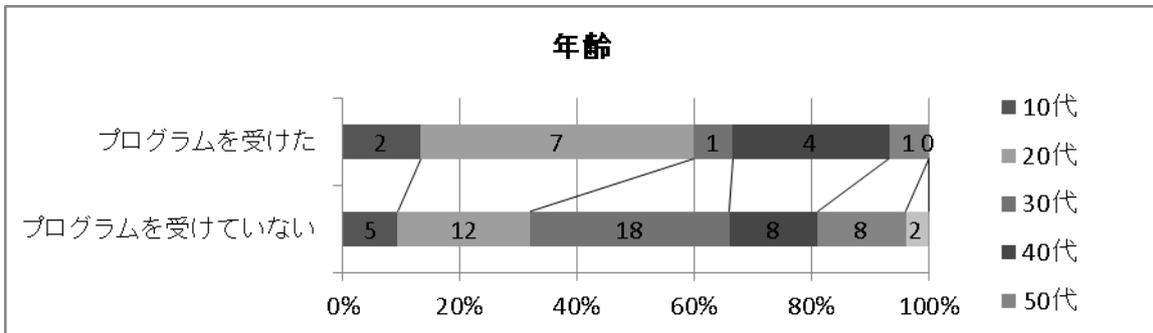
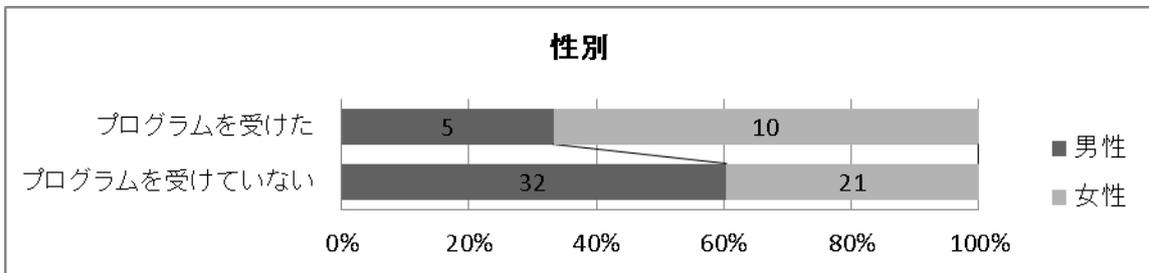
放棄・諦め、責任転嫁

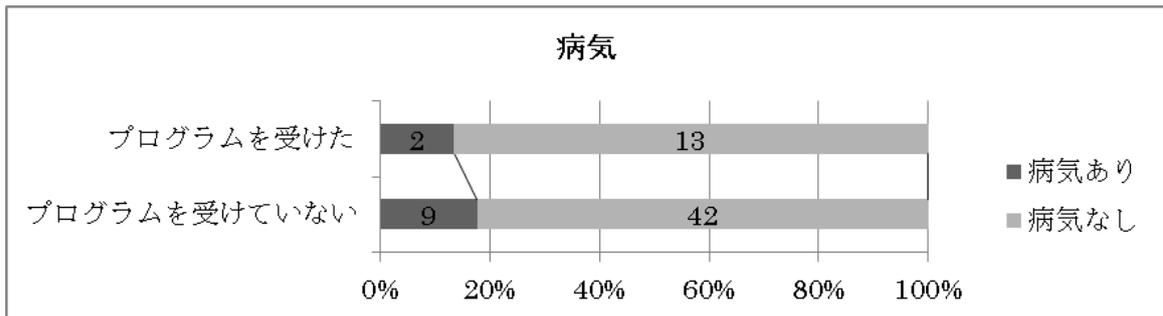
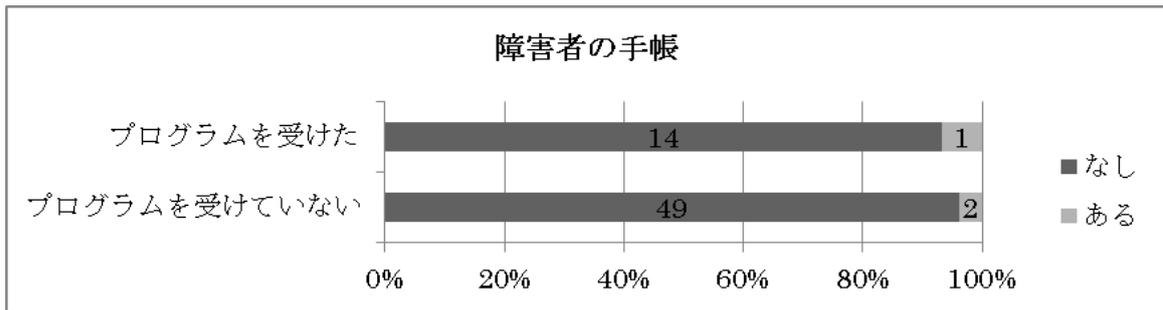
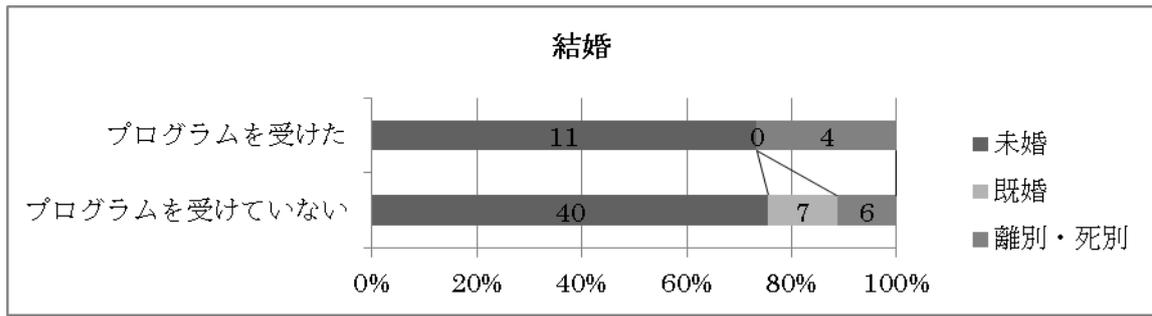
第 3 因子：肯定的解釈と気そらし

回避的思考、肯定的解釈、気晴らし

●ヨガプログラム受講者の属性

今回、京都自立就労サポートセンターの相談に至った 66 名のうち、前後比較可能な形で受講したのは 15 名であった。この受講した 15 名と受講していない 51 名の違いを「性別」「年齢」「学歴」「結婚の有無」「病気の有無」「障害者手帳の有無」でみていくと下記の表に示されたような結果であった。





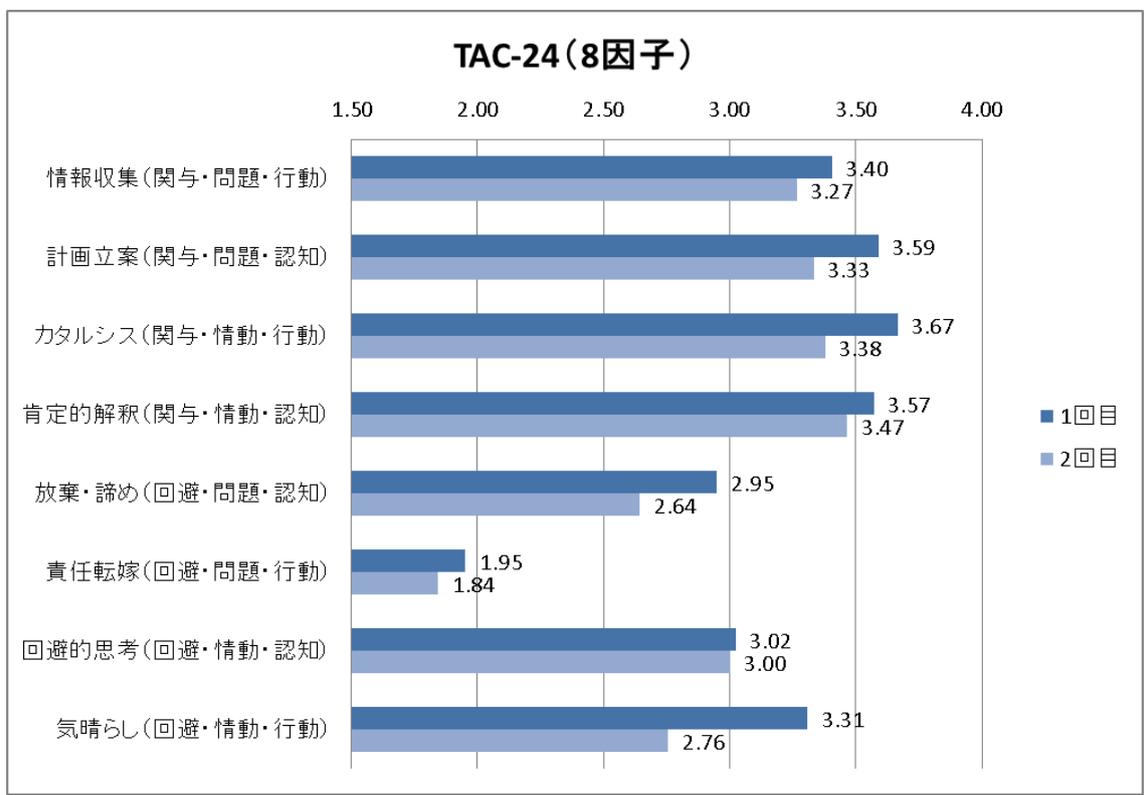
上記の結果をまとめると次のようになる。ヨガプログラムを受けた者と受けていない者との間では「性別」「年齢」「結婚」の項目で差がみられ、他の項目ではほとんど差はみられない。「性別」では、女性が多く受講している傾向にあり、「年齢」では、20代、40代での受講が多く、「結婚」では、既婚者では受講者はなく、未婚もしくは離別・死別で受講者がみられた。

●ヨガプログラムを受講した前後でのストレス対処の差

今回、本人のストレス対処にどのような変化がみられるのかを明らかにするため、受講前後に質問紙調査を実施した。

8通りのコーピングが受講前（1回目）と受講後（2回目）でどのように変化したかを表したのが以下の図である。以下に示している5件法で回答を求めており、1を「1点」、5を「5点」としての平均点を算出している。

1＝そのようにしたこと（考えたこと）はこれまでない。今後も決してないだろう
 2＝ごくまれにそのようにしたこと（考えたこと）がある。今後もあまりないだろう
 3＝何度かそのようにしたこと（考えたこと）がある。今後も時にはそうするだろう
 4＝しばしばそのようにしたこと（考えたこと）がある。今後もたびたびそうするだろう
 5＝いつもそうしてきた（考えてきた）。今後も常にそうするだろう



結果としては8因子すべてにおいて、2回目のほうがコーピングの値が下がってしまうという結果となった。ただし、この結果に統計的な有意差は見られない。

今回、ヨガプログラムの受講者の前後比較を行うことで、プログラムの効果をストレス対処の変化から明らかにしようと試みた。しかしながら前後で受講した者が15名と少なく、また、一週間という短い期間のプログラムであったため、統計的に明らかな変化を見出すことはできなかった。しかしながら就労支援を含めた複合的なプログラムにより、長期的な変化を見ていくことは今後の課題としたい。

資料編

依頼文

就労支援に関する指標策定のための調査のご依頼（ご説明）

京都自立就労サポートセンター
センター長 吉田 兵一

調査の背景と目的

京都自立就労サポートセンターは、2010年よりパーソナル・サポート・サービス事業（内閣府）を実施。その後、生活困窮者自立支援モデル事業として相談事業、就労支援事業を継続して実施しています。

2015年4月より生活困窮者自立支援法が施行され、全国で相談支援、就労支援が実施されることとなりますが、いまだ生活困窮者像が明確に定義されておらず、中でも就労困難者とはどのような人たちなのか、明確になっていないのが実態です。

今回、当センターにおいて、就労困難者の特性を明らかにするため、新規相談者に対して、SF-36v2 というQOL 関連指標および、高次脳障害の関連指標を活用した調査を実施することとしました。全国の自立相談支援機関、就労支援の現場において活用いただける指標として利用できることを目的としています。

ただ、調査期間が短いこともあり、当センターのみでは分析に十分なケース数を集めることが困難であるため、貴団体においてもご協力をご依頼する次第です。

依頼内容

貴団体にて新規相談を受け付けた方について、当センターより提供する、以下の3つのシートをご記入ください。

1. 基本情報シート（相談員記入）
2. 高次脳障害問診票（相談員記入）
3. SF36v2 調査票（本人記入）

研究協力者

京都府立大学 教授 小沢修司

一橋大学名誉教授 高田一夫

武庫川女子大学 大岡由佳

株式会社ナイス 田岡秀朋

京丹後市『くらし』と『しごと』の寄り添い支援センター 藤村貴俊

(有)地域・研究アシスト事務所 四井恵介

調査結果の公表

- 1 当センターの報告書

個人情報について

調査対象者の氏名は調査票には記入いたしません。また、調査票は当センターおよび研究協力者のみで利用、適切に管理いたします。データの第三者への提供は行いません。なお、集計においては情報取り扱いに十分注意するとともに、個人および団体が特定される集計は行いません。

調査票回収後、同意を撤回された場合には、収集したデータ等はすべて廃棄いたします。

以上、ご協力よろしく願います。

就労支援に関する指標策定のための調査 調査の手引き

<同意書の提出について>

調査の同意書につきまして、調査依頼と照らし合わせて、内容をご確認いただき、署名、押印のうえ、同封の返信用封筒（長3封筒）にて、ご返送ください。

<調査対象者>

2015年1月1日以降、3月10日頃までの新規相談者を対象とさせていただきます。
ただし、1回の相談で終結、連絡取れなくなった方や、SF36v2を自分で記入できないレベルの相談者は対象外とします。現状、就労支援を実施している方だけでなく、現在は生活支援（生活保護申請等含む）を行っていて将来的に就労への支援を行う予定の方も対象とします。

<調査票の記入について>

調査票の種類（お手数ですが、印刷おねがいたします）

- ・SF36v2 （※本人記入）
- ・基本情報シート （相談員記入）
- ・高次脳障害問診票 （相談員記入）

ケース番号について

必ず、3シートの対応がわかるように、それぞれのシートについてNo.1、No.2というように同じ連番を付与してください。なお、追加でお伺いする必要がでてきた場合に備え、貴団体内のケース記録と対応が取れる形で記録を残してください。

<調査票の返却>

2015年3月10日を目途に、同封しております着払伝票にて弊社へご返送ください。

以上、大変お手数をおかけいたしますが、ご協力よろしく願いたします。
不明点ございましたら、遠慮なく下記までお尋ねください。

<調査内容に関する問い合わせ先>

有限会社地域・研究アシスト事務所（調査受託）

担当： 四井恵介／飯田沙保里

E-mail: yotsui@cr-assist.co.jp TEL: 06-6624-1127

基本情報シート

基本情報シート

機関名：

ケース番号 _____ 記入者 _____ 初回面談年月 _____

※対象者について、既知の情報は相談員が記述し、不明な点のみ対象者にお聞き頂いて項目にお答えください
※初回面談時の状況についてご記入ください

- 1 性別 (男性・女性)
- 2 年齢 () 才
- 3 最後に出た学校は次のどれですか
 小学校 中学校 高校 高校中退 短期大学・専門学校
 大学 大学中退 大学院 その他 ()
- 4 結婚されていますか
 未婚 既婚 離別・死別
- 5 同居している家族は対象者を含めて何名ですか
() 名
- 6 同居しているご家族について、あてはまる方すべてに○をつけてください
 父親 (あなた自身または配偶者の父親) 母親 (あなた自身または配偶者の母親)
 祖父母 (あなた自身または配偶者の祖父母) 配偶者 子の配偶者
 幼稚園や保育園に通っていない小学校就学前の子ども
 幼稚園、保育園、認定こども園に通っている子ども 小学生
 中学生 高校生 大学・短大・大学院・専門学校生 (大学浪人を含む)
 職業に就いている子ども 学生以外で職業に就いていない子ども その他 ()
- 7 一か月の平均世帯収入 () 万円 わからない
⇒収入がある場合、その内訳
 就労 (本人) 就労 (家族) 年金 (本人) 年金 (家族)
 生活保護 (世帯) 家族からの仕送り その他 ()
- 8 借金や家賃の滞納はありますか
 はい いいえ 以前はあった
- 9 診断されている病気はありますか ※風邪などは記入不要、精神疾患等は記載してください
病名 ()
⇒ 病気に対してどのような対処をしていますか
 通院している 市販薬 なにもしていない その他 ()
- 10 睡眠状態はいかがですか
 よく眠れている あまり眠れていない ほとんど眠れていない
- 11 身体障害者手帳は、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳など障害者の手帳を持っていますか
 なし ある (具体的に:)

- 12 下記の項目で、該当するもの、該当するとお考えのものをお答えください（複数回答可）
- 若年・高齢 アルコール・薬物関連問題 その他の依存問題
 - 虐待（親から子） ドメスティックバイオレンス（夫婦・恋人間） 家庭内暴力（子から親など）
 - ホームレス（ネットカフェ難民等を含む） 精神障害の疑い
 - 発達障害の疑い 知的障害の疑い ひきこもり・不登校
 - 刑余者・犯罪歴 その他（ ）

- 13 就業経験はありますか
- 就労経験がある（問14へ） 就労経験はない（問17へ） 現在、働いている

- 14 就業経験がある場合、最後の仕事の就業形態
- 常用（正社員） 常用（正社員以外）
 - パート・アルバイト 派遣・請負

- 15 離職理由
- 自己都合 解雇 その他

- 16 離職期間はどれぐらいありますか
- 1ヶ月以内 1ヶ月～6ヶ月以内 6ヶ月～1年
 - 1年～3年 3年以上 就労経験はない

- 17 教育期間を終えた後の未就労期間はどれぐらいですか
- 1ヶ月以内 1ヶ月～6ヶ月以内 6ヶ月～1年
 - 1年～3年 3年以上～5年以内 5年以上 なし

- 18 今後、どのような生活を望んでいますかひとつ選んでください
- 就職して自活したい 寮つきの仕事で自活したい
 - 就職することはできないので何らかの福祉を利用して生活したい
 - 今のままでいい 家族のもとに戻りたい
 - 福祉の支援を受けながら軽い仕事を見つけたい
 - わからない その他（ ）

- 19 その他、就労支援するにあたって相談員が気になることなどあれば、自由にご記入ください

質問は以上です

あなたの健康について

このアンケートはあなたがご自分の健康をどのように考えているかをおうかがいするものです。あなたが毎日をどのように感じ、日常の活動をどのくらい自由にできるかを知るうえで参考になります。お手数をおかけしますが、何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

以下のそれぞれの質問について、一番よくあてはまるものに印 (☑) をつけてください。

問1 あなたの健康状態は？ (一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい)

最高に良い	とても良い	良い	あまり 良くない	良くない
▼	▼	▼	▼	▼
<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

問2 1年前と比べて、現在の健康状態はいかがですか。
(一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい)

1年前より、 はるかに良い	1年前よりは、 やや良い	1年前と、 ほぼ同じ	1年前ほど、 良くない	1年前より、 はるかに悪い
▼	▼	▼	▼	▼
<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

問3 以下の質問は、日常よく行われている活動です。あなたは健康上の理由で、こうした活動をするのがむずかしいと感じますか。むずかしいとすればどのくらいですか。
(ア～コまでのそれぞれの質問について、一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい)

とても むずかしい	少し むずかしい	ぜんぜん むずかしく ない
▼	▼	▼

- ア) 激しい活動、例えば、一生けんめい走る、
重い物を持ち上げる、激しいスポーツをするなど 1 2 3
- イ) 適度の活動、例えば、家や庭のそうじをする、
1～2時間散歩するなど 1 2 3
- ウ) 少し重い物を持ち上げたり、運んだりする
(例えば買い物袋など) 1 2 3
- エ) 階段を数階上までのぼる 1 2 3
- オ) 階段を1階上までのぼる 1 2 3
- カ) 体を前に曲げる、ひざまずく、かがむ 1 2 3
- キ) 1キロメートル以上歩く 1 2 3
- ク) 数百メートルくらい歩く 1 2 3
- ケ) 百メートルくらい歩く 1 2 3
- コ) 自分でお風呂に入ったり、着がえたりする 1 2 3

問4 過去1ヵ月間に、仕事やふだんの活動（家事など）をするにあたって、身体的な理由で次のような問題がありましたか。（ア～エまでのそれぞれの質問について、一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい）

いつも	ほとんど いつも	ときどき	まれに	ぜんぜん ない
▼	▼	▼	▼	▼

- ア) 仕事やふだんの活動をする
時間をへらした 1 2 3 4 5
- イ) 仕事やふだんの活動が
思ったほど、できなかった 1 2 3 4 5
- ウ) 仕事やふだんの活動の内容に
よっては、できないものが
あった 1 2 3 4 5
- エ) 仕事やふだんの活動をする
ことがむずかしかった
(例えばいつもより努力を
必要としたなど) 1 2 3 4 5

問5 過去1ヵ月間に、仕事やふだんの活動（家事など）をするにあたって、心理的な理由で（例えば、気分がおちこんだり不安を感じたりしたために）、次のような問題がありましたか。（ア～ウまでのそれぞれの質問について、一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい）

いつも	ほとんど いつも	ときどき	まれに	ぜんぜん ない
▼	▼	▼	▼	▼

- ア) 仕事やふだんの活動を
する時間をへらした 1 2 3 4 5
- イ) 仕事やふだんの活動が
思ったほど、できなかった 1 2 3 4 5
- ウ) 仕事やふだんの活動が
いつもほど、集中して
できなかった 1 2 3 4 5

問6 過去1カ月間に、家族、友人、近所の人、その他の仲間とのふだんのつきあいが、
 身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。

(一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい)

ぜんぜん、 妨げられ なかった	わずかに、 妨げられた	少し、 妨げられた	かなり、 妨げられた	非常に、 妨げられた
▼	▼	▼	▼	▼
<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

問7 過去1カ月間に、体の痛みをどのくらい感じましたか。

(一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい)

ぜんぜん なかった	かすかな 痛み	軽い 痛み	中くらい の痛み	強い 痛み	非常に 激しい痛み
▼	▼	▼	▼	▼	▼
<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6

問8 過去1カ月間に、いつもの仕事(家事も含みます)が痛みのために、どのくらい
 妨げられましたか。(一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい)

ぜんぜん、 妨げられな かった	わずかに、 妨げられた	少し、 妨げられた	かなり、 妨げられた	非常に、 妨げられた
▼	▼	▼	▼	▼
<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

問9 次にあげるのは、過去1カ月間に、あなたがどのように感じたかについての質問です。
 (ア～ケまでのそれぞれの質問について、一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい)

	いつも	ほとんど いつも	ときどき	まれに	ぜんぜん ない
	▼	▼	▼	▼	▼
ア) 元気いっぱいでしたか.....	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
イ) かなり神経質でしたか.....	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
ウ) どうにもならないくらい、 気分がおちこんでいましたか.....	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
エ) おちついていて、 おだやかな気分でしたか.....	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
オ) 活力(エネルギー)に あふれていましたか.....	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
カ) おちこんで、ゆううつな 気分でしたか.....	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
キ) 疲れはてていましたか.....	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
ク) 楽しい気分でしたか.....	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
ケ) 疲れを感じましたか.....	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

問10 過去1カ月間に、友人や親せきを訪ねるなど、人とのつきあいが、身体的ある
いは心理的な理由で、時間的にどのくらい妨^{きまた}げられましたか。
 (一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい)

いつも	ほとんど いつも	ときどき	まれに	ぜんぜん ない
▼	▼	▼	▼	▼
<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

問 11 次にあげた各項目はどのくらいあなたにあてはまりますか。(ア～エまでのそれぞれの質問について、一番よくあてはまるものに☑印をつけて下さい)

まったく そのとおり	ほぼ あてはまる	何とも 言えない	ほとんど あてはま らない	ぜんぜん あてはま らない
▼	▼	▼	▼	▼

- ア) 私は他の人に比べて病気に
なりやすいと思う 1 2 3 4 5
- イ) 私は、人並みに健康である 1 2 3 4 5
- ウ) 私の健康は、悪くなるような
気がする 1 2 3 4 5
- エ) 私の健康状態は非常に良い 1 2 3 4 5

これでこのアンケートはおわりです。
ご協力ありがとうございました。

TB31 調査票

(No.)

領域	NO.	具体的な内容	頻度					該当しない
			全くない		ときどき		いつも	
健忘性	1	伝えた内容について、他のことをした後を確認することを忘れている	0	1	2	3	4	N
	2	数分前に伝えたことを忘れている	0	1	2	3	4	N
	3	メモもらったことや、メモなどで伝えたことを忘れている	0	1	2	3	4	N
	4	他のことに注意が向くと予定を忘れている	0	1	2	3	4	N
	5	毎日の日課に沿って行動できるが、週1回程度の予定は忘れている	0	1	2	3	4	N
	6	特別な出来事の内容(たとえば映画や買い物)を思い出せない	0	1	2	3	4	N
	7	普段の日課を思い出せない	0	1	2	3	4	N
	8	月日や曜日を間違える	0	1	2	3	4	N
	9	2つ以上の指示をするといくつか忘れていく	0	1	2	3	4	N
意欲・疲労の低下	10	何もしたくない	0	1	2	3	4	N
	11	することがないと、横になりたがる	0	1	2	3	4	N
	12	すぐに疲労感を訴える	0	1	2	3	4	N
	13	自発的な行動がみられない	0	1	2	3	4	N
	14	少しでも難しいと思うと集中できなくなったり、やる気がなくなったりする	0	1	2	3	4	N
対人状況の低下	15	会話の文脈に合わない話をする	0	1	2	3	4	N
	16	話題がかわってもすぐに話についてこられない	0	1	2	3	4	N
	17	その場に不適切な発言をする	0	1	2	3	4	N
固執性	18	気になることがあると繰り返し行う	0	1	2	3	4	N
	19	物の配置や収納場所を過剰に一定にしたがる	0	1	2	3	4	N
	20	いったん思い込むとなかなか修正できない	0	1	2	3	4	N
情報動の低下	21	ちょっとしたことがきっかけで怒る	0	1	2	3	4	N
	22	待たされると怒ったりイライラしたりする	0	1	2	3	4	N
	23	精神的に不安定になりやすい	0	1	2	3	4	N
現実低下	24	問題を指摘されたり失敗に直面しても気にかけない	0	1	2	3	4	N
	25	危険なことをしているのに自分では安全だと思っている	0	1	2	3	4	N
	26	与えられた課題に集中してと取り組むことができない	0	1	2	3	4	N
	27	話を自分の都合のいいように解釈する	0	1	2	3	4	N
課題低下	28	決まった日課に沿って行動できるが、変更や追加があると対応できなし	0	1	2	3	4	N
	29	予定が重なるとどうしたらいいのかわからなくなる	0	1	2	3	4	N
	30	一度に2つ以上のことを説明すると混乱する	0	1	2	3	4	N
	31	他のことに気がとられていると予定の行動がとれなくなる	0	1	2	3	4	N

TAC24 調査票

TAC-24

精神的につらい状況に遭遇したとき、その場の困難を乗り越え、落ち着くために、あなたは普段から、どのように考え、どのように行動するようにしていますか。各文章に対して、自分がどの程度あてはまるか、評定して下さい。

- 1=そのようにしたこと(考えたこと)はこれまでない。今後も決してないだろう
 2=ごくまれにそのようにしたこと(考えたこと)がある。今後もあまりないだろう
 3=何度かそのようにしたこと(考えたこと)がある。今後も時にはそうするだろう
 4=しばしばそのようにしたこと(考えたこと)がある。今後もたびたびそうするだろう
 5=いつもそうしてきた(考えてきた)。今後も常にそうするだろう

- | | | | | | |
|--------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 悪い面ばかりではなく、良い面を見つけていく。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 誰かに話をきいてもらって冷静さを取り戻す。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. そのことをあまり考えないようにする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 友だちとお酒を飲んだり好物を食べたりする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 原因を検討し、どのようにしていくべきか考える。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 詳しい人から自分に必要な情報を収集する。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 対処できない問題だと考え、諦める。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 責任を他の人に押しつける。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 今後は良いこともあるだろうと考える。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 誰かに話をきいてもらい、気を静めようとする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 嫌なことを頭に浮かべないようにする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. スポーツや旅行などを楽しむ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 過ぎたことの反省をふまえて、次にすべきことを考える。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. 既に経験した人から話を聞いて参考にする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. どうすることもできないと、解決をあと延ばしにする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. 自分は悪くないと言いがれする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. 悪いことばかりではないと、楽観的に考える。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. 誰かに愚痴をこぼして、気持ちをほらす。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19. 無理にでも忘れるようにする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20. 買い物や賭け事、おしゃべりなどで時間をつぶす。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21. どのような対策をとるべきか綿密に考える。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22. 力のある人に教えを受けて解決しようとする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23. 自分では手におえないと考え、放棄する。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24. 口からでまかせを言って逃げ出す。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

同意書

同 意 書

平成 年 月 日

京都自立就労サポートセンター 御中

課 題 名	就労支援に関する指標策定のための調査
責任研究者	京都自立就労サポートセンター ワーキングチーム 高橋尚子

当団体は、説明を受け、研究計画の目的・意義・方法、研究成果の発表方法、個人情報保護の方法、ならびに安全管理での配慮などについて十分理解しましたので、調査に参加することに同意いたします。

説明を受けて理解した項目（□の中にご自分でレ印をつけてください。）

1 調査計画に関する事項

- 調査の背景と目的
- 調査の方法
- 調査成果の公表
- 提供する情報、データ等

2 個人情報保護の方法に関する事項

- データの保管・管理について適切になされること

3 その他

- 団体から請求があれば、当該データを開示すること
- 同意を撤回した場合、提供されたデータ等は廃棄されること

住所 _____

団体名 _____

担当者名 _____ 印

就労支援に関する指標策定のための調査報告書

作成：京都自立就労サポートセンター推進委員会 ワーキングチーム

発行：京都自立就労サポートセンター

発行日：2015年3月